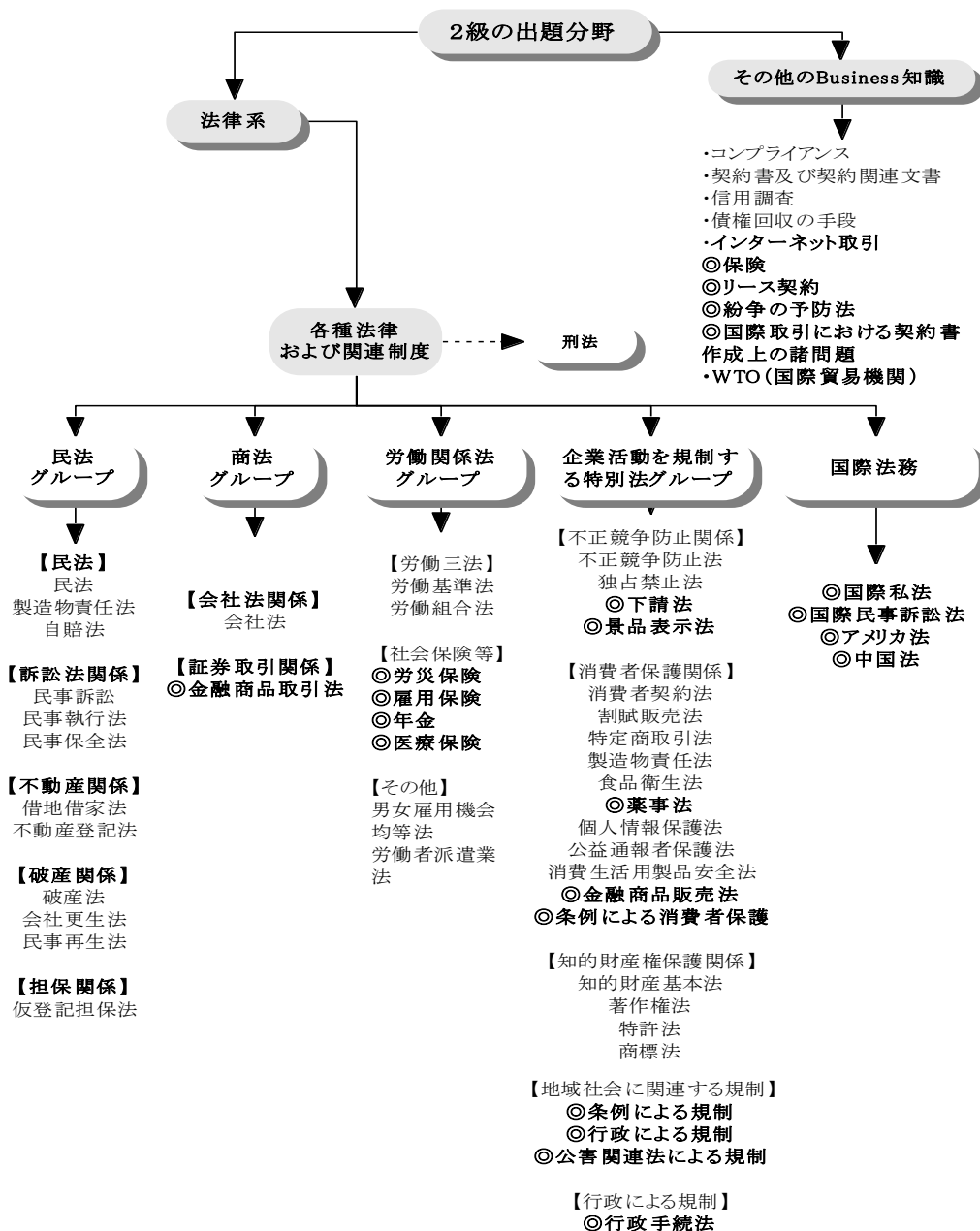


出題分野と受験対策について

2 級の出題分野



◎の部分は 2 級で新たに学習する部分。

2 級の試験は、3 級程度の知識をマスターしていることが前提となる。また、新たに学習する分野も多くなっている。しかし、注意しなければならないことは、3 級で既に学習済みの分野であっても、もう一步踏み込んだ知識が問われるということである。すなわち、出題者は 3 級の知識を前提として、より細かな知識（実際のビジネスで本当に役立つ知識）が出題される。

また、出題分野についても、ある程度の偏りはあるにしても、3 級と比較すると全範囲、万遍なく出題される傾向がある。

2 級に合格することのメリット

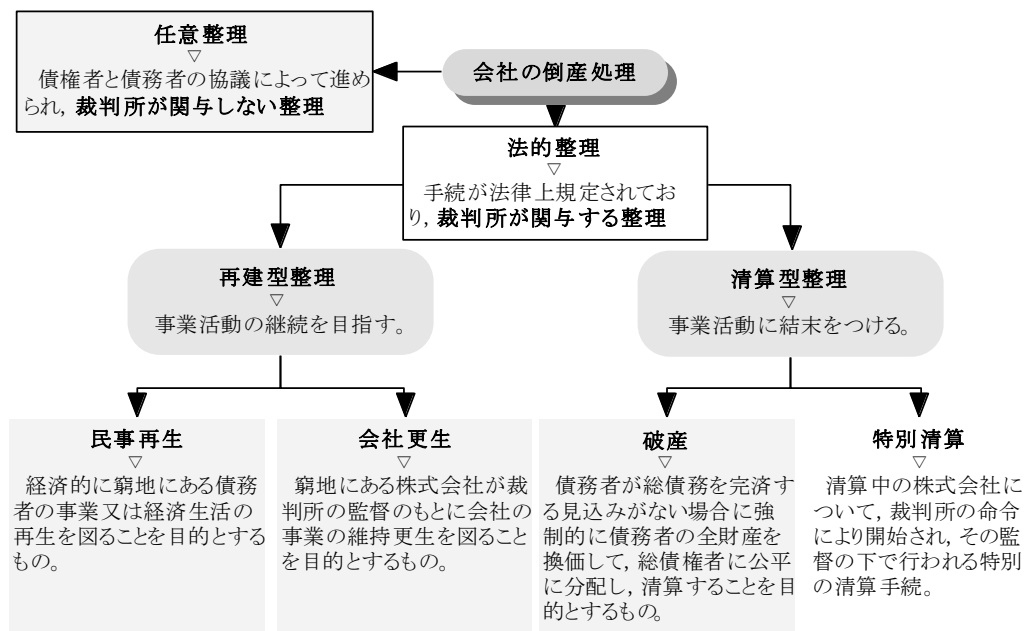
1. 法律の理解が高まる。

(1) 2 級で学習する内容と 3 級で学習する内容の比較

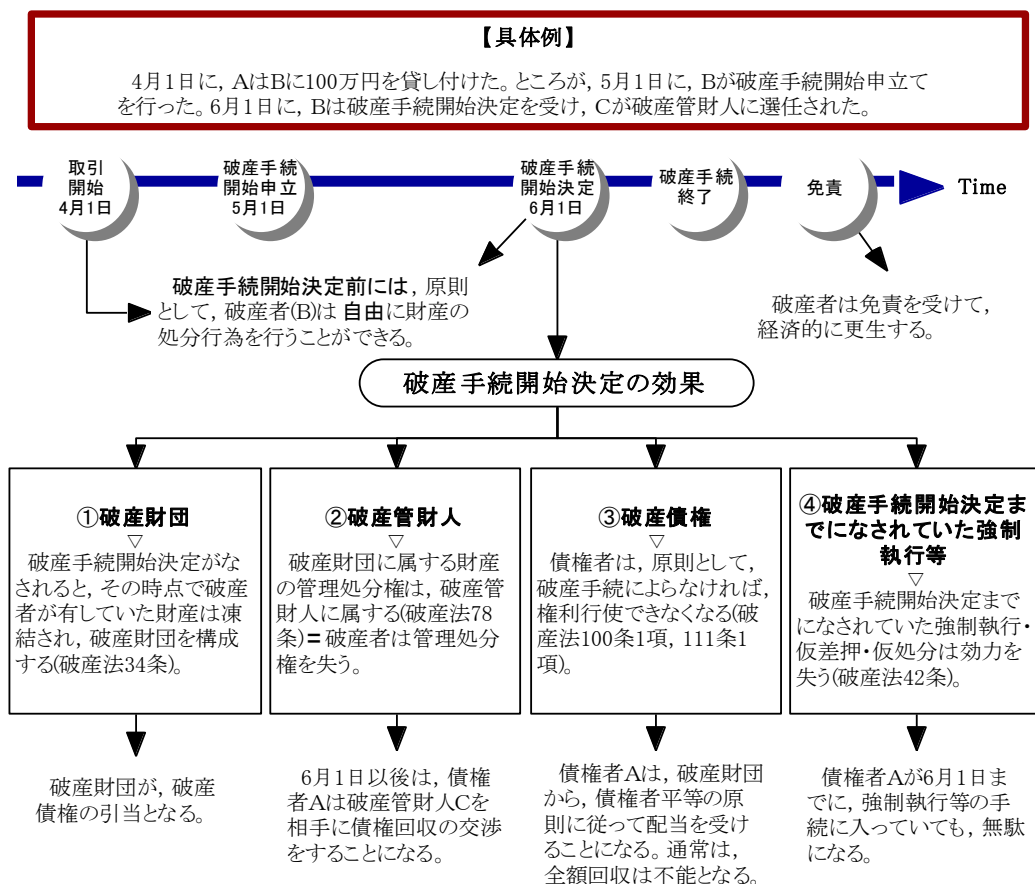
3 級はあくまで、基本的な法律概念や基本的な制度の内容を理解することにウエイトがあり、具体的な制度の内容についてまでは、学習しない。

2 級と 3 級との学習内容の違いが最も端的に現れる事例の一つが、会社の倒産処理である。

(2) 3 級の場合－会社の倒産処理の全体構造を学ぶのみ。



(3) 2級の場合－破産法の具体的内容を学習する。



①支払不能・支払停止・債務超過などの破産原因が存在する場合(theme02 破産手続開始の申立参照)に、裁判所が破産手続開始決定を行うことによって手続が開始される。

②破産手続開始決定と同時に破産管財人が、破産者の財産の管理処分権を取得し(theme04 破産手続開始決定参照)、破産手続開始決定時における破産者の財産によって構成される破産財団を管理・換価し(theme09 配当参照)、破産手続開始決定前の原因に基づく債権、すなわち、破産債権を調査・確定し(theme05 取引先との関係参照)、これに対する配当を行う。

③これに対して、手続費用や租税債権には、財団債権としての優先権が与えられ、また、特定財産上の担保権には、別除権の地位が認められて優先弁済権が保障されている(theme05 取引先との関係参照)。

④破産者は、手続終了後に破産免責を得て、経済的更生を図ることができる(theme11 個人の破産手続における留意点参照)。→以下略

2. 実務で役に立つ

これは先ほどの学習内容の違いから生じることであるが、3 級は、2 級と比較すると、現実的には、あまり仕事上では役立たない。

3 級を学習すると、基本的な法制度についての知識については知ることができるが、その具体的内容については学習しない。これに対して、2 級では、具体的内容について学習するので、実務上、ある程度役に立つ。

3. 学習効率が上がる－特に、3・2 級同時受験の場合

法律では、たくさんの専門用語が存在し、一度勉強しただけでは、なかなかマスターできない。3 級で基本的な制度の概念をマスターし、更に、2 級でその具体的内容を学習すると知識が定着しやすい。

特に、3・2 級同時受験をすると、その効果は大きい。

第29回試験の傾向と第30回試験への対策

2 級の傾向と対策

(1) 出題形式

2 級の出題形式は単純である。五肢択一問題が40題出題される。前半の20問の配点は1問あたり3点であり、後半の20問の配点は、1問あたり2点である。

前半20問は、後半20問と比較すると、1問あたりの文章が長く、若干難易度が高い傾向にある。

(2) 傾向

1. 第29回試験は前回(第28回試験)と比較すると、若干難しくなった。従って、合格率は少し下降するものと思われる。

2. 第29回試験が若干難しくなった原因は以下のとおりである。

①全体的に問題文が少し長くなった。前回(第28回試験)は、近時では最も問題文が短かったが、今回の試験は全体的に問題文は長くなった。

②例年、少数ながら、公式テキストに記載されていない知識が出題されている。しかし、今回出題された知識はほとんどが公式テキストに記載されている知識のみであり、その点では簡単になったはずであるが、かつて出題された難問といえる肢の出題数が多く、しかも、更に一ひねりしている出題もあったため、全体的には難易度は上昇した。

③実質的に総合問題の出題数が増え、全範囲を万遍なく潰しておかないと点数が取れない問題が出題された。

④事例問題の出題数は増加してはいないが、複雑な事例の数が少し増え、問題を解くのに少々時間がかかる問題が多かった。

3. 第25回試験から、第26回試験、第27回試験と段々難しくなっていた。第27回試験では、難易度が急激にアップしたので、第28回試験はそのやり戻しで、かなり簡単になった。おそらく、今回の試験は前回少し簡単にしすぎたので、その調整のために難易度を上昇させたのではないかと推測される。次回(第30回試験)の予想は難しいが、今回の試験の合格率が大幅に下がった場合には、次回(第30回試験)は簡単になるであろうと思われる。

(3) 対策

1. まず、一番有効な対策は、基礎知識を確実にマスターすることである。こまかな知識に泥濘せず、基礎知識を充実させることこそが、合格への近道であると確信する。

2. 次に、ひっかけ問題や応用力を試す問題の対策として、問題演習に力を入れることである。

一発合格のための対策

2級の場合、第20回試験では難易度の低下が見られたが、第21回～22回試験からすれば、明らかに、難易度が上昇している。基本的には、以下の点に配慮して学習すべきである。



受験対策の P o i n t

① 3 級の知識を完全にマスターした上で、細かい知識をマスターする。←この部分は比較的難しい出題が多い！

特に、合否を分ける民法・会社法では、応用問題が出題される。

また、2 級の公式テキストには記載されていないが 3 級の公式テキストには記載されている知識が、ほぼ毎回 1 ～2 題は出題されている。

② 2 級で新たに学習する分野について知識を入れる。←この部分は比較的簡単な出題が多い！

③ 出題可能性の高い分野については弱点を作らない。

以上の点を踏まえた上で、更に注意することは、満点を狙わないということである。確かに、2 級の場合、難易度は上昇しているが、しょせん、70 点をとれば、合格できる試験である。2 級の出題数は 40 問であるが、配点は前半は 3 点、後半は 2 点である。従って、10 題～15 題間違っても、合格できる。

難易度の高い問題に泥濘せず、基礎知識に関する問題を確実に取れば、必ず合格できる。